

証券市場新聞

1 第169号

日経平均株価

2万1602円69銭

▲217円53銭(前日比)

TOPIX

1615.72

▲8.06(前日比)

2019

3/4

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



株主優待は何を選ぶ？

0円分をドゥカー
一律にQ
21)は
ク(58
ユーテッ
は平河ヒ
具体的に
している
が活発化
する動き
充、新設
制度を拡
個人株主の増加は大今年に入っても優待

度の新設することを
発表し、株価は1月
4日の928円から
2月には1700円
台まで急騰、全国共
通食事券の拡充を
発表した八洲電機(3
153)などを含め
て、優待を新設・充
実した企業の株価は
底堅い推移となっ
ている。
優待狙いで認知度
が高い代表格は日
航空(9201)で、
保有株式数に
882)

新設、拡充の動き活発化

贈呈する株主優待制度

今年もほぼ3週間後に3月決算期末が到来する。26日の権利付最終日へ向けて配当と株主優待狙いの動きが活発化しそうだ。配当は当然ながら優待も1年のうちで一番多い月で、銘柄数は800超にもなる。全般相場は昨年12月末の暴落から落ち着きを取り戻しており、割安に放置された銘柄なら中長期視野に立てば個人投資家にとって絶好の買いチャンス。最低投資金額が低い銘柄を複数保有することで多くの優待を受けることも投資手法として有効だ。

3月末配当と優待を狙う

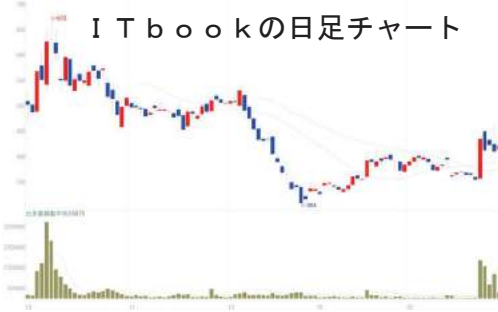
最低金額で複数銘柄に投資

国内線50%割引の株主割引券と7%割引の国内ツアー割引券が贈呈。オリックス(8591)はカタログから希望の商品が選べるふるさと優待(全国各地のカタログギフト)を実施、外食産業では、

など、100株単位なら20〜40万円程度で投資が可能だ。加えて、大幅増配を行う企業では前期の63円から120円へとほぼ倍増となるアサヒホールディングス(5857)も魅力。ルノーの主導権争いが話題になっている日産自動車(7201)はPR1倍割れで配当利回りは6%超であり、日本3大自動車メーカーとしては魅力だ。

日経平均日足チャート





ITbookストップ高

地盤改良体品質判定にAI活用

質一次判定に人工知能(AI)を活用したと発表されたことが材料視された。セメントによる地盤改良工法では「コア」(地

25日、ITbookホールディングス(1447)がストップ高。傘下のサムシングが業界で初めて地盤改良体品質判定にAIで「コア」判定ができてという。人件費の削減に加え、調査件数の増加が期待でき、早期収益貢献を期待した買いを集めた。

今週の動意銘柄

盤改良施工時に改良体から採取した供試体)を採取し品質を確認する必要があり、画像認識AIで「コア」判定ができてという。人件費の削減に加え、調査件数の増加が期待でき、早期収益貢献を期待した買いを集めた。

北海道電

25日、北海道電力(9509)が急落。原子力規制委員会が北海道電力泊原子力発電所の再稼働に向けた安全審査で原発敷地内を通る断層が活断層であることを「否定できない」との見解を示したと伝わったことで、再稼働への不透明感から失望売りがかさんだ。北海道電力は敷地内の断層を活断層でないことについて証明を示してきたが、根拠が乏しいとされている。

井筒屋セール好調で増額

26日、井筒屋(8260)が急伸。19年2月期の業績予想について、連結売上高を784億円から788億円(前期比0.6%増)へ、営業利益で11億円から13億円(同13.3%増)へ上方修正した。閉店セールの好調に加え、販売費や一般管理費の減少などが寄与し

石油関連軒並み安

26日、国際石油開発帝石(1605)や石油資源開発(1662)、出光興産(5019)など石油関連株が軒並み安。25日のNY原油先物WTI価格が前週末比1.78ドル安の1バレル55.5ド

公募価格の2.5倍

22日に東証マザーズ市場に新規上場した識学(7049)が公開価格1800円の2.5倍となる4550円で初値が生まれた。同社は識学を使った経営、組織コンサルティング、識学を使った従業員向け研修、識学をベースとしたwebサービスの開発、提供を行う。

鉄人はエボラと提携

26日、鉄人化計画(2404)がストップ高。エボラブルアジア(6191)との資本業務提携を発表した。毎月抽選でペア国内航空券が

正直いいさんの株で大判小判

1日の東京市場は反発。2月28日のNY株は安かったものの、好調な米経済指標の発表を受け、111円70銭台まで進んだ円安を追い風に朝高の後も下値を切り上げました。米朝首脳会談決裂時にアルゴ売買で先物から値を崩していましたが、週末あり、週末場から上げ個別では調で、新興ど中小型株ンリツ(6)を上げられる強い短期値幅取るネクストジェー電子(686)の5G関連も水準を切り上げています。ファイバーゲGT(945)は一段高があると見て持ち続。バイオではメデイシノバ(4875)が1月高値110円抜けなら妙味。 花咲翁



公開価格の2.3倍

27日、前日に東証マザーズ市場に新規上場したりックソフト(44) リックソフトの初値 2.3倍 公開価格の2.3倍 27日、前日に東証マザーズ市場に新規上場したりックソフト(44) 入支援などを行う。

企業観察 三社電機製作所(6882)

中期経営課題を着実に

三社電機製作所(6882)は19年3月期第3四半期累計の連結決算は、経常利益13億9300万円(前年同期比26.2増)と大幅増益で着地。主力のパワーモジュールがFA機器や各種インバータ向けに伸び、リチウムイオン電池や電解コンデンサ向けなど素材加工用電源が堅調だった。通期は期中上方修正で18億円(同21.5%増)を見込むが、3Qの進捗率は77.4%と順調、コスト対策の進展や受注状況から通期計画達成にメドが立ち、期末配当を18円として、年間配当を28円(前期20円)に増配する。

今期22%経常増益で増配へ

ただ、スマートフォン関連減速の影響を受けた表面処理用電源や半導体が伸び悩むなど、受注環境には厳しさが増しており、中期経営計画2年目となる20年3月期は中計に掲げた経営課題を着実にこなすことで収益力を強化する構え。半導体は小型化・高効率化ニーズに対応、電源機器は自動車向け表面処理用電源や中国向け焼却灰溶融電源の拡販により、海外売上比率を5割に引き上げる。すでに家電向けが伸びており「今後は大型電源をどれだけ上積みできるかがポイント」と(会社側)としている。

サイボウズ 67% 増益

が好感された。

公開価格の2.4倍

スマレジの初値

28日、スマレジ(4431)がマザーズに新規上場、公開価格1370円の2.4倍の3225円で初値をつけた。スマレジなどのアプリの開発と販売を行う。

公開価格13%上回る

フロンティアの初値

28日、フロンティアインターナショナル(7050)がマザーズに新規上場、公開価格2410円を12.7%上回る2715円で初値をつけた。イベント・PRや店頭販売を総合プロモーション。

エンビプロ3日連続S高

貴金属回収特許技術で変貌期待

27日、エンビプロ・ホールディングス(5698)が3日連続ストップ高に買われた。22日に焼却灰からの貴金属回収方法と装置について特許を取得したと発表したことが引き続き書い手がかりになった。焼却灰から金、銀、プラチナ、パラジウムなどの貴金属を高品位で回収



する技術・装置を活用

用して、貴金属資源の再資源化と廃棄物の再資源化率の向上に貢献するとしており、特許技術による業務変貌が期待されている。

公開価格91%上回る

東海ソフトの初値

27日、東海ソフト(4430)が東証2部に新規上場、公開価格1500円を91.4%上回る2872円で初値が生まれた。同社はソフトウェア受託開発とソフトウェア

エア開発に係る役務提供を行う。

3月は調整月を予測

先週の東京株式市場は3週連続伸となりました。28日に発表された米10~12月のGDP速報値が市場予想を上回ったことで長期金利が2.7%台に上昇し、ドル円が111円台半ばまで円安が進行。このため1日の日経平均は値高株が牽引するかたちで指数が押し上げられて戻り高値を更新しました。一方、時価総額を指数化しているTOPIXは日経平均の上昇率の半分程度であり、高値更新には至りませんでした。

日経平均ベースでは26週線が2万1661円、昨年末の急落に対する半値戻しが2万1698円であり、強力な壁として立ちはだかりましょう。また、NY市場は1日まで今年初めての3連敗。1日の終値が2万6031ドル以下であれば、10週ぶりに反落となります。反落開始となれば、3月相場は高値期日迎えもあり、調整月ではないかと考えております。



日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル

松やにと基幹技術融合

界面科学と環境対応で飛躍
ナノペーストなど先端開発進める

ハリマ化成G (4410)

機能性ナノ粒子分散液、コーティング用樹脂合成技術と分散技術を融合した表面親水コート剤は幅広い用途、分野

ハリマ化成グループ(4410)は中期視野に立った取組みとして、植物由来の松やにを基盤原料とするエコロジー性と乳化分散、界面制御、高分子設計などの基幹技術を融合、新規用途開拓に改めて力を入れ始めた。

塗料、接着、インキ用の合成樹脂など機能性樹脂、サイズ剤、アクリルアミド系紙力増強剤や表面塗工剤などの製紙用薬品、鉛フリーソルダペーストなど電子材料は今や中核事業として収益を支えるが、これらコア製品も基盤原料の松やにと基幹技術を融合することで生まれてきた。環境対応と機能性を両立する独自技術は国内外で多くの特許を取得するなど高い評価を得ており、現在は事業領域にとられない幅広い分野に研究開発を進めている。

への採用が期待され、アルミニウムろう付け材料はカーエアコンの熱交換器をよりコンパクト、高性能化することが可能。感光性、光増幅性、撥水性、耐熱性など新機能を持つ電子材料用機能性樹脂の合成法やナノペーストに加え、マクロ粒子で導電性回路を形成する導電性ペーストへの期待も強い。

さらに、ロジンの機能性を活かした用途開拓を探索しており「改質剤などの新分野を創出できるよう取り組んでいる」(会社側)としており、今後の開発次第でビジネスチャンスは大きく広がっていく。

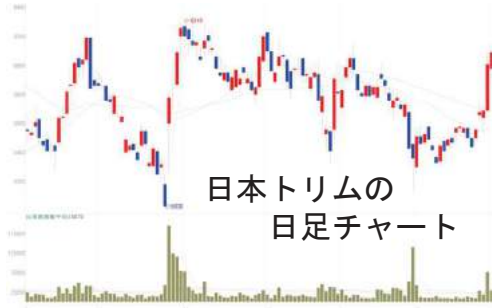


特選銘柄

樹脂合成と分散技術を生かして開発したUV硬化型

トリムは一段高

バイオ関連子会社へ関心



国内最大の民間運営するシステムセル研究所をはじめとしたバイオ関連子会社への関心も再度高まった。

日本トリム(867)が一段高。バイオ関連銘柄が続く

大手海運株売られる

ばら積み船用船料2年ぶり安値

は新規契約数が過去最高水準で推移しており、中国での病院事業などを含めてグローバルなメディアカ

週末1日、日本郵船(9101)、商船三井(9104)、川崎汽船(9107)

など大手海運株が売られた。鉄鉱石を運ぶ大型ばら積み船の

用船料が2年ぶりの安値をつけたことで、

採算悪化を警戒した。売りが優勢になった。

米中貿易協議への進展期待から中国景気減速懸念が和らぎ、

海運市況には底入れ感が広がっていたが、

鉄鉱石の主要輸出国のブラジルで1月下旬に発生した鉱山事故に

故に加えて、現地は雨期に入ったことで、

荷動きが鈍っている。

という。

1日、ラオックス(8202)が急伸

18年12月の連結決算は計画を下回り、営業損益8億5

100万円の赤字で着地したが、19年

12月期は20億円の黒字とV字型回復

を見込んだことが好感された。前期は歳

暮商戦の苦戦や暖冬による秋冬商品の需

要減退で採算が悪化した

が、今期は店舗の効率が向上し、

貿易・越境ECの拡大

が急改善する。

今週の動意銘柄

潮流

中国経済の復活は近い

内需拡大政策の効果徐々に表面化

marKet / bAnk

上海総合指数は1月4日に2440ポイントで大底を打ち、2月27日に2997ポイントまで上昇。3000ポイントの大台がすぐ目の前だ。2カ月間で22.8%の上昇となる。米中貿易交渉の合意への楽観的な見方が株価を押し上げている。

さらに需給面からも株高を後押しするとの期待が出ている。MSCIは「新興国株指数」の組み入れで、中国株の時価総額を反映する比率を現在の5%から20%まで引き上げる方向を検討している。投資家の支持が得られれば、2019年夏までに2段階で引き上げる見通しだ。実現すれば海外資金の流入が加速する。

米ゴールドマン・サックスは、組み入れ拡大が決まれば、19年に中国株へ650億米ドル（約7兆2150億円）の海外資金が流入すると予測している。18年の450億米ドルから加速することになる。関税引き上げの延期と中国が米国から輸入を大幅に拡大するということが決まった。それは中国国内の経済拡大を前提としている。経済が拡大しなければ、モノは買えない。モノを大量に買う力は、経済力を高めるしかない。中国の内需拡大政策の効果はこれから

今年に入ってから中国株式市場の上昇が止まらない。2月に入ってからさらに勢い付いている。

徐々に表面化してくるだろう。米国が仕掛ける貿易紛争は、日本との貿易摩擦の時と同じく、相手国の経済を拡大することで、米国への需要拡大を狙ったものである。また、海外資金が向かう先は中国の株式だけ

から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

ではない。世界的な債券運用の指標の1つである「ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合指数」は、4月から中国の国債と政策銀行債を新たに組み入れる。採用後は指数全体のなかで人民幣建て債券のウエートは6%とドル、ユーロ、円に次ぐ4番目の発行通貨となる。

英HSBCは、組み入れをテコに中国の債券市場に約1500億米ドル（16兆6500億円）の海外資金が流入すると予想する。それには通貨の安定が欠かせない。価格変動が相対的に小さい債券ならなおさらだ。米中交渉では、貿易不均衡是正に向け中国側が元安誘導の制限を受け入れた。一見、中国側の譲歩とも受け取れるが、外資を呼び込みたい中国側も望んでいる。中国経済の復活は近いかもしれない。

潮流銘柄はアイリッジ(3917)、スマレジ(4431)、ラクオリア創業(4579)。

アイリッジの日足チャート



株、債券へ海外資金流入

チャートから読む 騰落銘柄

GTS(4584)



1月30日安値655円を底に上昇基調続く。1月18日の高値922円を抜けば昨年12月4日の1018円を目指す展開も。導出先での腎性貧血バイオ後続薬の9月承認申請に期待。

サニーサイド(2180)



好決算発表を好感。マド空け急伸後の高値持ち合いを上放れ、株式分割を考慮した実質最高値を更新する。株価上昇過程で信用買い残の整理が進み、大勢上昇トレンドのなか青空相場を一段高へ。

浜松ホトニクス(6965)



4000円トビ台後半まで上昇した後は、ジリ安傾向で上値の重い状況続く。19年9月期は第1四半期好調も10月、11月に比べて半導体製造装置やFA機器などでの12月伸び鈍化が気がかり。

ロジガード(4391)



1月21日に付けた最高値4380円で天井感。日足陰転のあと2度にわたり戻りを試すが、25日線に跳ね返され、13週線も下回る。当面、26週線が走る2500円までの下げ止まりがポイント。

今週の

活躍期待銘柄



アライドアーキ(6081)

19年12月期は黒字転換へ

期待される。益改善効果も期待される。(と)

アライドアーキテクツ(6081)の株価は1月31日の安値340円を底に上昇、500円を抜ければ昨年9月5日の高値672円を目指す展開に期待したい。SNSに特化した企業のマーケティング企画・運用・分析などの支援業務を展開、利益率の低い海外SNS広告の取りやめなどが影響し、前18年12月期は赤字決算を余儀なくされたが、構造改革の効果が表面化する今期は連結売上高42億1000万円(前期比3.0%増)、営業損益2億5100万円(前期1200万円の赤字)と黒字転換の見通し。近年急速に市場が拡大している中国向け越境ECやインバウンド市場へのインフルエンスを発信力を活用したプロモーション支援を推進、連結子会社化したCreedit社の収益改善効果も期待される。(と)

構造改革の効果が表面化



ウォンテッドリー(3991)

求人ビジネスSNSで急成長

期待。へ株式分割にも(さ)

ウォンテッドリー(3991)は17年10月に付けた株式分割を考慮した最高値を奪回、青空相場を一段高に向かった。求人機能を中心としたビジネス交流サイト「Wantedly」を主力とするSNSプラットフォーム運営会社で、求人企業と個人のマッチングサービスを中心に名刺管理アプリやビジネスチャットなど関連サービスを充実。人材採用需要が高水準で推移するなか、インターネットや機械学習などを活用した人材マッチングビジネスの成長性に評価が高まっている。19年8月期も連結営業利益3億300万円(前期比82.3%増)と大幅増益で最も業績更新を見込むが、第1四半期は9500万円(前年同期比3.5倍)で着地、計画を上回って推移している。株主拡大へ株式分割にも期待。(さ)

1Q営業利益3.5倍で計画超

米株次第の構図続く

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

1〜2月でほぼ昨年12月の暴落前の高値まで回復したので、概ね、これまでの米中協議問題をはじめ12月に売った懸念材料を修復する形になりました。したがって、今後、2万2000円抜けから更なる上値を目指すには新たな支援材料がほしいところですが、大きく売られる材料もありません。と、一時的に需給面での調整による下落を経験して新たな動きを待つという格好になると思われ

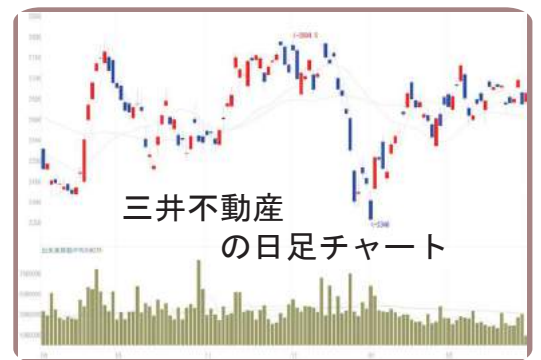
ます。その調整はニューヨークダウで2万5

外人投資家の不信解消を

000ドル近いまでとみていいのではないかと思われ。日経平均は米国並みの戻りとなれば2万3000円を超えて2万4000円台まで回復してもいいことになりませんが、買主体の外国人がいまひとつ日本株へ本腰を入れていないことを考えますと、そこまでの戻りがあるかどうか判断は難しいことになります。

米国株式が反転して下落に転じる場面が続いた場合には、その影響を受けることになり、日本の景気事情などを考慮にいれると容易ではありません。外人投資家にとって不信感を募らせているのは企業業績の悪化や消費税に対する警戒感だけではなく、来年度予算で消費税増税分を景気対策に応用したことです。税収の伸びに消費税のよる増収が見込めるならば、財政健全化に対して真剣に取り組み姿勢を見せるべきと不満に考えているようです。したがって、日経平均が単独で上値を迫る展開は難しく米国株次第という構図は続くことになりそうです。

2月28日には一気に半値押しまで下落をしました。9000〜17000円の間を繰り返している。米株次第の構図は続くことになりそうです。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の 株街往来

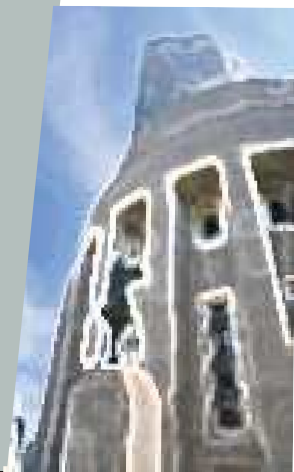
～貸し手の責任～

違法建

築問題でレオパレス21の株価が半値以下にまで暴落、問題発覚後も新たなトラブルが続々と表面化しており、問題解決の糸口さえ見えないう状況となっている。

直近では、賃貸マンションで火災警報器の警報音が誤動作で突然なり出して、入居者がオーナーに指摘した後に、そのオーナーが警報器の電源を無断で落として、その後火災警報器の誤動作は筆者も数年前に経験しているが、故障を指摘してもオーナーが早急に対処しなくて、苦労した経験がある。

賃貸物件の問題は、違法な建築というのは当然ながら階段の電球や電気、水道など様々な問題が常に付きまとう。筆者の知人には親の後を継いだオーナーもいるが、外壁の修繕など想像以上にお金と労力が必要なことに驚いたことがある。最近では入居者がいけば何もなくても家賃収入があるとか、気軽な収入源になると軽く考える方も少なくない。貸す側、借りる側ともそれぞれの立場で責任はある。事情は個々で異なるが企業、個人オーナーともに甘さがあったなら、信用を取り戻すには並み大抵の努力では駄目だろう。



New product

イトランド 麻婆モツツアレラ炒飯 コンテスト受賞作品を商品化



イトランド 麻婆モツツアレラ炒飯

イトランド(2882)は、餃子専門店「大阪王将」において、「麻婆モツツアレラ炒飯」を3月31日までの期間限定で販売している。

全国の大阪王将の従業員を対象としたメニューコンテスト「大阪王将メニューマイスターグランプリ2019」において、応募総数120品の中からグランプリに輝いた作品を商品化したもの。モツツアレラチーズとゴーダチーズを使ったマイルドな味付けで、伸びるチーズとキュウリの食感が楽しい絶品炒飯。大阪王将神戸ハーバーランド店・富永展生さんの作品で、子供から大人まで幅広い層をターゲットに、食べやすさと食感の面白さにこだわっている。

後期作の「恋文」を公開

大和ハウス工業

フェルメール大阪展特別協賛



大和ハウス工業(1925)特別協賛の「フェルメール展」の大阪展が2月16日から、大阪市立美術館(大阪市天王寺区)で開催されている。「フェルメール展」は昨年1

0月5日に東京・上野の森美術館で開催してからの総入場者数が68万3485人となり、ヨハネス・フェルメールの後期作の一つである「恋文」が大阪展のみで公開されている。加えて大阪展では、17世紀のオランダ絵画黄金期を代表する画家フェルメールの作品が6点展示されている。練りこまれた構図と物語性の高さが際立つ「恋文」に加えて、日本初公開となる「取り持ち女」が展示されることや、大阪市のメインストリートである御堂筋では約3キロにわたりPRバナーが掲出されており、5月12日までの開催期間中は多くの来場者を集めそうだ。



敏腕先物トレーラー

ハチロクの裏話

約15%であったように、これを今回に当てはめると12月の26日の安値1万8948円58銭から15%上昇は2万1790円となる。

不況下の株高

SQ通過後は要注意

長いこと相場に携わっている「不況下の株高」といふ現象に見舞われることがある。企業業績が悪くても、株価は上がっていくケースが少なくない。これは、株高の裏面に、企業業績が落ちているにもかかわらず、株価が上がるという現象がある。これは、株高の裏面に、企業業績が落ちているにもかかわらず、株価が上がるという現象がある。

ある。今の現象がそうである。昨年12月の下落で株高は業績悪化を織り込んで言え、それまでかもしないが、長い目で見た場合、株高は業績で判断されるものである。増収減益が見通される。今期は業績の裏付けがない。

ある外資系のストラジストによると2000年以降この「ベアマーケットラリー」が4回あったようである。この時の戻り相場のパターンを分析すると株価は安値から天井を打つまでは2カ月、2カ月半程度、安値からの株価上昇率は平均



編集後記

28日の米朝首脳会談は合意に至らなかった。トランプ大統領は北朝鮮が全面的な制裁解除を要求したことを理由にあげたが、安易な譲歩がなされなかったことに安堵したのは筆者だけではないだろう。日韓関係が急激に悪化する一方、南北融和を進めたい韓国政権は北朝鮮への傾斜を強めている。民族統一は歓迎したいが、仮にこのまま将来、南北統一となれば、隣に核を持った反日国家ができることになりかねない。ただ、北朝鮮にとつて核は交渉の武器であり命綱、簡単に手放すわけではない。

今週のスケジュール

- 1日 米2月ISM製造業景況指数 (2日0:00)
米連邦政府、暫定予算の期限
- 4日 2月マネタリーベース (8:50)
- 5日 中国全国人民代表大会(全人代、国会に相当)開幕
米2月ISM非製造業景況感指数、米12月新築住宅販売件数 (6日0:00)
米1月財政収支 (6日4:00)
- 6日 米2月ADP雇用統計 (22:15) / 米12月貿易収支 (22:30)
米1月製造業受注 (7日0:00)
- 7日 2月都心オフィス空室率 (11:00)
1月景気動向指数 (14:00)
ECB定例理事会(ドラギ総裁会見)
- 8日 1月家計調査 (8:30) / 10-12月期GDP改定値 (8:50)
2月景気ウォッチャー調査
メジャーSQ算出日
中国2月貿易収支
米2月雇用統計 (22:30)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。